



注水式ポールスタンド **ウォーターウェイト**

WATER WEIGHT

特長

特許申請中

重ねて使って重量倍増

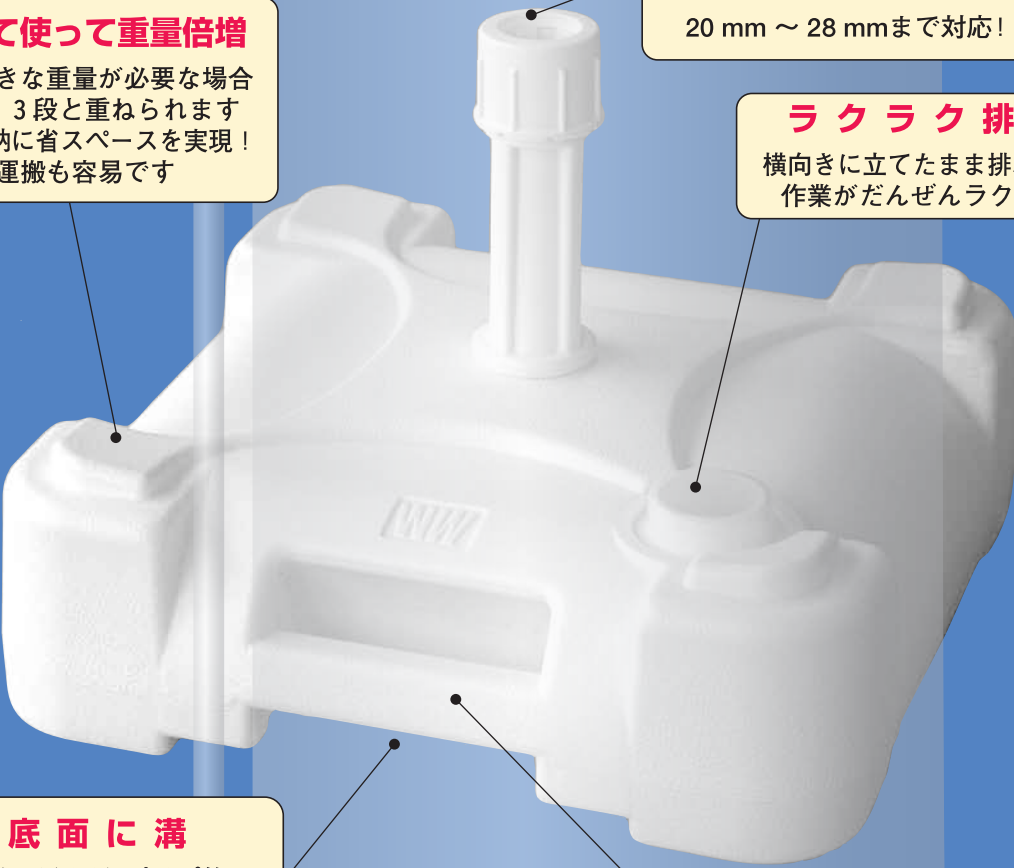
より大きな重量が必要な場合
2段、3段と重ねられます
更に収納に省スペースを実現！
運搬も容易です

太さの違うポールにも対応

20 mm ~ 28 mmまで対応！

ラクラク排水！

横向きに立てたまま排水できます
作業がだんぜんラクラクです



底面に溝

押さえが必要なパイプ等の
くわえ込みができます

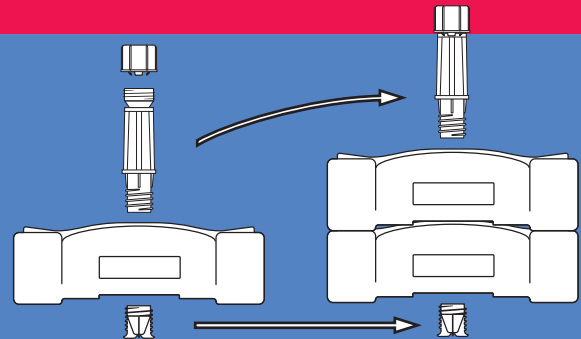
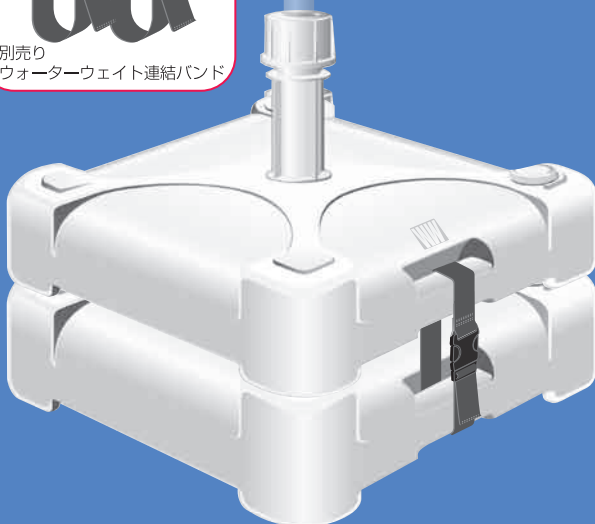
2つの持ち手

対面の持ち手なので設置が簡単
重い作業も半減します



別売り
ウォーターウェイト連結バンド

重ねて使えるので強い安定力を発揮します



重ねて使用される場合はアンカーを下のタンクに、
支柱部を上の方のタンクに使用して下さい。
使わない支柱とアンカーはタンクの底部に保管し
て下さい。

(サイズ) 支柱セット使用時：W410×D410×H300
収納時：W410×D410×H135
(支柱セット) 2段重ね時：W410×D410×H420
満水時重量：約15kg

注水式 ポールスタンド

WATER WEIGHT

設計者がのぼり用注水式ポールスタンドの設計にあたっての経緯を振り返って見ます

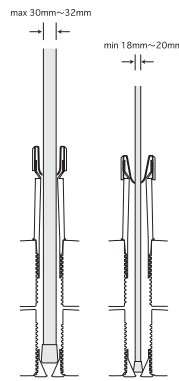
1) 耐風強度は標準以上に

市販の製品などを収集し内部の容積量を水によって測定しポイントとして～重量・構造的な床接地面積・複合的な条件～などを自社独自の測定方法を「引張り強度」とし ポールにかかる風の力を想定して引張りの最大値をとってそれぞれを分析した
結果：内部容積は従来品とほぼ同じ程度で良く 床接地面積を十分に保つことを条件とする



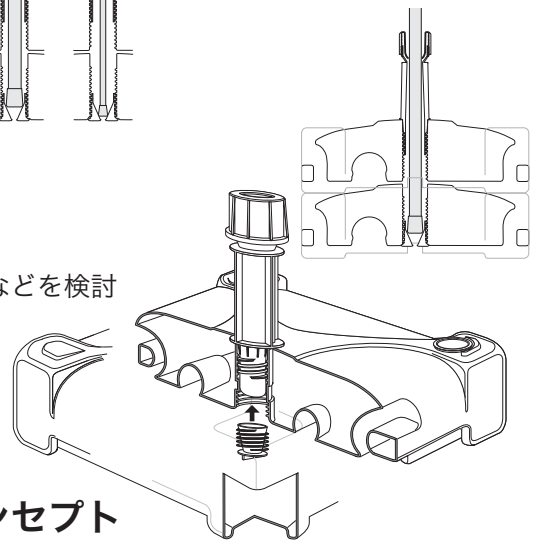
2) 一般的なのぼりポールのサイズ

ほとんどのポール径は下の太い側が22mmで 自社からの出荷も同規格のポールが大半を占めている
このサイズの前後に対応できるものを目指す
結果：19mmから30mmを想定して設計してみる



3) 製法はブロー成形

形状からしてブロー成形を採用し 本体支柱ともブローに見合った形状を設計する



4) 旧来品より勝る使い勝手を付加価値に

水の注排水/設置場所への移動/接地の簡便さ/収納の方法などを検討

- a) 排水に力が要らない：立てて置けばある程度排水する
- b) 重ねて収納できる形状：さらに重ねて使える形状を模索
- c) 持ち手をつけることで運びやすいことと：重ねて使う時に持ち手部分を結束に使うことにしたらどうか

以上の要素から「重ねて使える形状」をコンセプトにし 他の要因を加味してゆく方向を選択しました

ラフ案からパソコンでの図案に進み クレイモデルならぬスチレン素材での彫刻モデリングを作り 模索しながら実現への感触を得たのが経緯です



感想：今考えても 排水が簡単な事と パッケージから出して縦積みした時にかなりの量が重ねられるので 省スペースという観点からも着目して良かった要素です
デザイン的にも 広く各方面でご愛用いただいていることに満足と感謝をいたしております ありがとうございます
そしてこれからもよろしくお願ひ申し上げます プランニングルーム 岩下 多計志

